

Title	運動・コミュニケーション発達支援
Sub Title	Developmental support for motor and communication
Author	山本, 淳一(Yamamoto, Junichi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>目的：1.包括的発達支援プログラムの構築：これまでの研究は、特定の障害に対応する個別なカリキュラムで実施されることが多かった。本研究では、「運動発達」と「コミュニケーション発達」を支援することで、発達全体の促進がなされるかを検討した。2.発達支援アプリの作成：発達支援アプリを用いた支援効果の定量解析をタブレット PC に実装し、幼児期から児童期までの発達障害児ひとりひとりへの支援効果を調べた。3.遠隔地発達支援 telehealth のモデル構築：家庭と大学と地域の発達支援機関とで、定量データをもとに共通の支援を進めた。</p> <p>方法：自閉症のある幼児と児童：1.事前評定：(a)新版K式発達検査、バイナランド適応行動尺度、JCDI言語発達検査、運動発達検査などを用いた標準アセスメントを支援室で実施した。(b)子どもの行動：コミュニケーションと運動スキルについて、家庭での映像を行動コーディングした。2.発達支援：(a)アプリによる支援：運動・コミュニケーション発達支援プログラムを実施した。(b)家庭内支援：撮影された家庭内での適切な行動を増やすため、オンラインでの教示、ビデオモデリング、ビデオフィードバックを支援技術として用いた。</p> <p>結果：事前と同様の場面でのアセスメントを行った結果、画面に描かれた場面に対応する行動が獲得された。同時に、Zoomでの相互作用を用いた役割課題においても、獲得されたコミュニケーション・運動が出現し、フォローアップにおいても、成績が維持された。運動については、一連動作の模倣を行うことで、家庭内での学習の可能性が示された。</p> <p>The purposes of this study were to examine whether the intervention of movement and communication by computer-based program in the telehealth would facilitate development for the children with developmental disabilities. The intervention program was supplied by Cloud and Zoom. The weekly assessment session was conducted by the experimenter and daily sessions were implemented by parents. The results showed that children acquired communication, linguistic skills and motor imitation. The result suggests the effects of telehealth program for development of motor and communication.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=202100003-20210014

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200 (B) 千円
	氏名	山本 淳一	氏名 (英語)	Junichi Yamamoto		
研究課題 (日本語)						
運動・コミュニケーション発達支援						
研究課題 (英訳)						
Developmental Support for Motor and Communication						
1. 研究成果実績の概要						
<p>目的: 1.包括的発達支援プログラムの構築:これまでの研究は、特定の障害に対応する個別的なカリキュラムで実施されることが多かった。本研究では、「運動発達」と「コミュニケーション発達」を支援することで、発達全体の促進がなされるかを検討した。2.発達支援アプリの作成:発達支援アプリを用いた支援効果の定量解析をタブレット PC に実装し、幼児期から児童期までの発達障害児ひとりひとりへの支援効果を調べた。3.遠隔地発達支援 telehealth のモデル構築:家庭と大学と地域の発達支援機関とで、定量データをもとに共通の支援を進めた。</p> <p>方法: 自閉症のある幼児と児童: 1.事前評価: (a)新版K式発達検査、バイランド適応行動尺度、JCDI 言語発達検査、運動発達検査などを用いた標準アセスメントを支援室で実施した。(b)子どもの行動:コミュニケーションと運動スキルについて、家庭での映像を行動コーディングした。2.発達支援: (a)アプリによる支援:運動・コミュニケーション発達支援プログラムを実施した。(b)家庭内支援:撮影された家庭内での適切な行動を増やすため、オンラインでの教示、ビデオモデリング、ビデオフィードバックを支援技術として用いた。</p> <p>結果:事前と同様の場面でのアセスメントを行った結果、画面に描かれた場面に対応する行動が獲得された。同時に、Zoom での相互作用を用いた役割課題においても、獲得されたコミュニケーション・運動が出現し、フォローアップにおいても、成績が維持された。運動については、一連動作の模倣を行うことで、家庭内での学習の可能性が示された。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The purposes of this study were to examine whether the intervention of movement and communication by computer-based program in the telehealth would facilitate development for the children with developmental disabilities. The intervention program was supplied by Cloud and Zoom. The weekly assessment session was conducted by the experimenter and daily sessions were implemented by parents. The results showed that children acquired communication, linguistic skills and motor imitation. The result suggests the effects of telehealth program for development of motor and communication.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
東美穂・山本淳一	知的支援学級に在籍する軽度知的障害を伴う自閉スペクトラム症児に対するオンライン発達行動支援の効果の検証	日本小児心身医学会第 39 回大会	2021 年 9 月			
西山優希・東美穂・山本淳一	オンライン会話スキル支援:自閉スペクトラム症児 2 名の双方向的コミュニケーション	日本行動分析学会第 39 回大会	2021 年 8 月			